



# 蒲小だより

未来を拓く児童の育成

文責 校長 山本 智文

## 「ありがとう」からはじめる勇気づけ

「ほめられれば大人だってうれしい」。

しかし、ほめることにはいくつかの危険性もかくされていると思うのです。例えば、小学校1年生の子どもが3歳になる妹に絵本を読んでいるとします。「A君、すごいね。もう本を読んであげられるんだ。」とほめたらどうでしょう。もちろん、兄は気分がいいでしょう。しかし、この一言で兄の「妹に絵本を読んであげよう。妹がうれしそうに聞いてくれると、ぼくまでうれしい。」という純粋な気持ちは「そうか。絵本を読んであげるぼくはえらいんだ。すごいんだ。」という気持ちにスイッチが入ってしまうかもしれません。そして、次に本を読む時は「ほめられる」ことを前提にして読むようになり、親の見ていないところでは読まなくなるかもしれません。「ほめる」ことが、結果として勇気をくじいてしまうことにつながるかもしれません。このような時、どうしたら勇気づけることができるのでしょうか。

簡単そうで、実は奥の深い勇気づけの第一歩は「ありがとう」ではないかと思うのです。この例でも「Bちゃん、絵本を読んでもらって喜んでいるね。A君、ありがとう。」と声をかけたらどうでしょう。兄は「僕は妹を喜ばせることができる。それは、お母さん（お父さん）にとってもうれしいことなんだ。」と、貢献することの喜びを味わうことができます。この貢献感を育てることは、その集団への所属感を育てることにもつながります。つまり、「ぼくは家族の一員である」というつながり感覚をもたせることができるのです。この関係の例は、学級活動や学校の縦割り班活動等、いろいろな場面で応用できるのではないのでしょうか。学級や学校、地域社会への貢献に注目し、「ありがとう」と声をかけていくことが、子どもたちへの勇気づけとなっていくのではないのでしょうか。

「ありがとう」といった言葉で、相手の貢献に対し感謝の意を伝えることは、子どもたちの「私は必要とされている」という感覚を育てることにもつながります。「勇気づけ」の第一歩としては誰もがすぐにはじめられる便利な言葉です。しかし、勇気づけは、「ありがとう」だけではないし、言葉によるものとは限りません。我々指導者には、「どういう声かけが良いのか」「どういう評価をしていくのが良いのか」「どう寄り添っていくのが良いのか」等、機を逃さず子どもたちと向き合っていくことが求められていると思うのです。



## 新来島広島どっく「進水式」見学会

10月3日(火)に全校児童で安芸津にある「新来島どっく」の「進水式」を見学してきました。

全員が大型貸し切りバスに乗り込み、新来島どっくを目指しました。到着後、すぐに係員の方に案内されて「記念写真」を撮りました。この写真がその時撮影した写真です。



進水式を迎えるタンカーをバックに“はいっ、チーズ!”みんなとてもいい表情だったのがとても印象的でした。

記念撮影後、「進水前神事」が執り行われ、支綱が切断され、勢いよくタンカーは海へと滑り出して行くのでした。なかなか「船の進水式」は見ることができないので、子どもたちの思い出の1ページに強く刻まれたことでしょう。このように蒲刈小学校では、これからも子どもたちに本物に出会わせることを大切にしていきたいと思います。今度は何を企画しようかな...



## 安芸灘大橋の主塔に登る



10月5日(木)に、5・6年生14名が安芸灘大橋の主塔に登り、そこから見える島々の景色を一望しました。さわやかな秋空の下、海面から約130mの主塔に登る等の体験を交え、「安芸灘大橋の役割や構造」等を学ぶ見学会を実施しました。最初は緊張して主塔に登り始めた子どもたちでしたが、降りてきた時の子どもたちから漏れ聞こえてきた言葉は一律に「きれいだった!」の言葉でした。これは、蒲刈小学校の子どもたちが蒲刈町・下蒲刈町両蒲刈の「ヒト」「コト」「モノ」と触れ合い、自分たちの生き方につなげる「ふるさと学習」の一環として企画したものです。なかなか見ることでできない風景を一望できた子どもたちでした。これも「本物に出会う」ことの大切さを痛感した出来事となりました。当日、参加した子どもたちから「安芸灘大橋を近くで見学し、たくさんの人たちの力で造ったということがすごいなと感動しました。」「私たちの知らないところでいろいろな物が造られ、様々な人たちが頑張っていることを知ることができ、良い経験になりました。」等の感想を聞くことができました。ちなみに、中国新聞社・ホームテレビ・雑誌「くれえばん」の取材を受けました。

## 校内授業研究

10月26日(木)に、3・4年生が授業研究を公開しました。

今回は、授業研究、協議、指導講話を通して、特別支援教育の視点を踏まえた授業改善及び複式学級における授業づくりの手立てを学び、日々の実践に生かしていくことを目的に授業研究に取り組みました。3・4年生が算数科においてそれぞれ「分数」の学習に取り組みました。3年生は「分数のたし算の仕方」について、4年生は「等しい分数の見つけ方」についてそれぞれ学習に集中して取り組みました。

複式学級の指導は、例えば、まず3年生の指導を行い、指導者は一定の指導を終えるとその後4年生に移動(「わたり」という)し、「学習リーダー」が進めている内容を確認するとともに指導を行います。毎日、当番の児童がその日の学習リーダーとなり、指導者が一方の学年を指導している間、中心となり学習を進めていきます。4年生ともなると「本時のめあて」と「めあてに沿ったまとめ」を子どもたちだけでできるようになります。

### 【一例】

「今日のめあては何にしますか?」⇒「～がいいと思います。」

「他の人はどう思いますか?」⇒「う～ん、(少し考えて)これでいいと思います。」

「みなさん、できましたか?」⇒「はい、できました。」

「では、発表してください。」⇒「ぼくは、まず～と考えると、このように解きました。」

「〇〇くんの考え、分かりましたか?」⇒「う～ん、もう一度説明してください。」

「今日のまとめを考えましょう。ノートに書いてください。」

「書けましたか?では、発表してください。」⇒「私は、～と書きました。」

「今のまとめでいいですか?」⇒「ぼくは、～と考えました。」

「今の意見をどう思いますか?発表してください。」※その後、みんなの力でまとめを完成させます。  
◆すると、指導者が移動してきて、「まとめはできましたか?なるほど。いいまとめができていますね。それでは、今日の学習のポイントは何か?」と学習の振り返りを行うのです。

3年生は、45分の学習の展開が示されたホワイトボードに沿って学習を進めていきます。指導者は次の展開を意識させ学習に取り組ませます。今回は、タブレットと大型テレビ、ホワイトボードを活用し、目に見える形（可視化）で学習に取り組ませました。言葉だけではなかなかイメージできない場合の配慮としてICTを効果的に活用し思考をうながして行きました。

4年生は、学習リーダーを中心に「学習ガイド」を使いながら学習に取り組ませました。導入では、ピザの絵を活用し「 $1/2$ 」「 $2/4$ 」が同じ大きさのピザになることを確認させるとともに、「分数数直線」を活用し、等しい分数をどのようにして見つけることができるか、自分たちで解決させて行きました。活動の様子を次に示します。



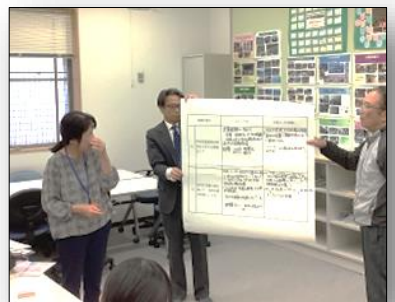
3年生の学習の様子



4年生の学習の様子

授業研究後は、全教職員で授業研究に係る協議会を行いました。

「広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部 黒木敏弘指導主事」「呉市教育委員会小中一貫教育指導グループ 下正美貴子指導主事」のお二人を講師としてお招きし、3・4年生の授業をもとに協議を進めて行きました。



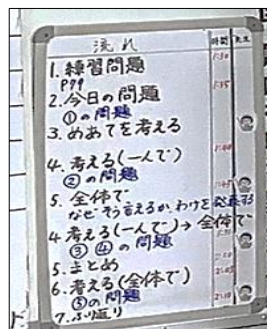
協議した内容の発表の様子

日々の授業実践の中に特別支援教育の視点を取り入れ、再度見直しを図ることは、「より質の高い授業」へと改善できる重要なポイントとなります。「子どもたち一人一人の実態に応じた配慮や支援」を講じていくことで、真の意味で「質の高い授業改善」がなされていくものと考えています。これからも授業改善に向けて十分な教材研究を行い、さまざまな指導の工夫や手立てを講じていくことにより、児童の理解が深まる授業づくりを目指して行きます。

※黒木敏弘指導主事には、今回を含め3回ご指導いただきました。

「とても参考になる授業でした。今後、他校にも蒲刈小学校の実践を紹介していきたいです。多くの学びをありがとうございました。」とお褒めの言葉をいただきました。

学習ガイド  
(学習の流れ)



## 第59回呉市小学校陸上記録会



10月28日(土)に郷原にある「ミットヨスポーツパーク郷原」で、「第59回呉市小学校陸上記録会」が開催されました。本大会には、5・6年生児童が出場しました。今年度からコロナが5類に移行したこともあり、久しぶりの5年生の参加となりました。

さわやかな秋空の下、開会式が執り行われ、その後、出場選手たちは各会場に分かれ競技を開始しました。広々とした陸上競技場なので、蒲刈小学校の子どもたちを確認するのが大変でしたが、蒲刈小学校の子どもたちが出場する場面では声を張り上げ、惜しめない声援が送られました。選手たちの耳には、この声援が届いていたことでしょう。

結果、「6年100m男子 5位」「5年ソフトボール投げ女子 4位」「6年走り高跳び女子 5位」と上位に入賞しました。どの児童も自身の自己ベストを目指して果敢にチャレンジし、練習の成果を発揮することができました。一生懸命取り組む姿はとても美しいものです。この経験を生かして、さまざまなことにチャレンジして行ってほしいです。



競技会場の様子

## 食育の推進

食育は、生きる上での基本であって、「知育」・「徳育」・「体育」の基礎となるものであり、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることです。蒲刈中学校に栄養教諭の先生が常勤しておられます。午前中は、蒲刈共同調理場に勤務され、午後蒲刈中学校で栄養教諭として勤務されています。

栄養教諭の役割は、学校給食を作ることに加えて、児童・生徒へ食や栄養に関する指導を行うことです。栄養教諭は、小中学校に勤務し、児童・生徒の食生活・栄養やアレルギー等に対する個別的な指導、学級活動等の機会を使った学級単位での食事・栄養指導等を行っています。

今年度の「食に関する指導場面」の一部を紹介します。食に関する学習を通して、食や栄養に関する知識と食を選択する力を習得して行ってほしいです。

